



新年のご挨拶

システナ健康保険組合
理事長 国分 靖哲

新年あけましておめでとーうございます。

被保険者ならびにご家族の皆様におかれましては、新しきよき年を健やかに迎えられたこととお慶び申し上げます。また当健康保険組合の事業運営につきまして日ごろより多大なるご理解・ご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて昨年は、長年の懸案でありました「社会保障・税一体改革関連法」が成立し、今後、順次実施に移されることとなりました。この一体改革は、消費税率見直しによる社会保障の財源確保と、少子高齢化に対応した制度の再構築が目的です。ところが成立した内容は、健保組合にとって不満の残るものとなりました。健保財政逼迫の最大の原因である高齢者医療制度をどうするかが今後の社会保障制度改革国民会議での検討に委ねられたからです。

現在、健保組合はかつてない厳しい財政状況を余儀なくされています。平成23年度決算（見込）では、全国の健保組合の経常赤字は総額で3、489億円に達し、全組合の約8割が赤字となりました。24年度予算ではこの状況はさらに悪化し、赤字は5、782億円へ拡大、全組合の約4割が保険料率を引き上げたにもかかわらず、赤字組合が全体の約9割に達する見通しです。

その原因は明らかです。高齢者医療制度への支援金・納付金の保険料収入に対する割合は46・2%にも達し（24年度予算）、皆様から納めていただく保険料の約半分は高齢者医療制度を支えるために支出されている計算です。

こうした状況を正すため、健保組合や健康保険組合連合会（健保連）では前期高齢者の医療給付費への公費投入の拡大を訴えてきましたが、現状では具体的な法律の

形となつてはおりません。前述のように、今後社会保障制度改革国民会議で検討される運びとなったわけですが、健保組合・健保連では、真の改革が実現されるよう強く働きかけていく方針です。

システナ健康保険組合においても、平成24年度に保険料率を7・2%から8・4%へ引き上げさせていただきましたが、それでも不足する分については、積立金を取り崩して赤字を補填せざるを得ませんでした。過去に積み上げてきた積立金もすぐに底をついてしまうほどの急激な財政悪化です。

公費からの高齢者医療制度への支出増もすぐには期待できず、医療費や支援金・納付金のさらなる増大が見込まれる中、人間ドック受診・一部負担還元金などの健保組合独自の健康増進活動や助成制度を可能な限り継続していくために、遺憾ではありますが、来年度においても保険料率の引き上げは避けられない見込みです。ぜひとも被保険者の皆様方のご理解をいただきたくお願い申し上げます。

これらの健保財政の問題の根底には「増え続ける医療費」があります。当健保組合も健診結果を疾病の早期発見・早期治療に役立てる働きかけや、ジェネリック医薬品の使用促進などをさらに図ってまいります。皆様におかれましても、日々の健康づくりと適正受診にご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

最後となりましたが、この一年が皆様にとって実り多き年となりますようお祈り申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。